
第1回 エックス線被ばく事故検討WG 資料2

エックス線被ばく事故検討WGにおける課題の整理

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
放射線医学研究所 計測・線量評価部
物理線量評価グループ
古渡 意彦

- 設立趣旨
- WG設置目的
- 具体的な検討課題等について

(前略)

放射線防護の諸問題を扱い、放射線安全文化の醸成に関する活動を強化している日本保健物理学会は、この事故の社会的な重大性を考慮し、関連の情報を独自に収集して会員間で共有すると同時に、必要な情報を社会にも発信していくことが専門家集団としての責務であると考え、「エックス線被ばく事故検討WG」を設置することにいたしました。

同WGでは、事故の背景と経緯、線量評価、健康影響などの情報収集を行い、1)安全管理上の対策・課題、2)測定、線量推定に関する課題、3)社会とのコミュニケーション上の課題、等を整理します。

2)WG目的

被ばく線量評価、放射線防護、放射線安全を専門分野とする学会として、

- (1) 事故の背景、経緯とその対応に関する関係各所の情報を収集し、専門家の観点からそれらを分析する。
- (2) 事故の分析に基づいて教訓を整理し、安全文化の醸成に資する学会としての見解を発信する。
- (3) 放射線防護の分野を専門としない方のために、事故の概要を理解いただくため情報を発信する。
- (4) 対象とする事故の内容に留まることなく、エックス線の利用に関する広い視野での管理上の問題点、課題を整理し、学会としての今後の対応方針を明確にする。

(1) 事故の背景、経緯とその対応に関する分析

1-1) エックス線装置の安全管理上の対策・課題

- ・エックス線装置に関する情報

フェイルセーフ、フールプルーフ機能について

1-2) 労働安全衛生上の課題

- ・個人保護具、教育等

1-3) 事故の経緯とその対応

- ・評価・検討に際して、報道等の公式発表より実施

(2) 事故の分析に基づいて教訓を整理し、安全文化の醸成に資する学会としての見解を発信する。

2-1) エックス線装置の安全管理上の側面

2-2) 個人被ばく線量測定、
事故発生時の線量推定に関する側面

2-3) 社会とのコミュニケーション上の側面

(3) 放射線防護の分野を専門としない方のために、事故の概要を理解いただくため情報を発信する。

- 3-1) エックス線装置の安全管理の点からの概要説明
 - ・放射線防護上の観点に加え、装置の利用方法等も考慮
 - ・関係法令等との関連

- 3-2) 被ばく線量について
 - * 関係各所からの公式発表後に情報発信

(4) 対象とする事故の内容に留まることなく、エックス線の利用に関する広い視野での管理上の問題点、課題を整理し、学会としての今後の対応方針を明確にする。

4-1) 種々のエックス線装置における安全管理

4-2) エックス線装置使用における個人・作業環境の測定・線量評価について

4-3) エックス線装置使用に関する作業員・監督者間のコミュニケーションのあり方

具体的な検討課題等について

被ばく線量評価、放射線防護、放射線安全の
観点から今次事故に関する検討課題を例示

ご清聴ありがとうございました



量子科学技術研究開発機構(QST)は、量子科学技術による「調和ある多様性の創造」により、平和で心豊かな人類社会の発展への貢献を理念とし、「世界トップクラスの量子科学技術研究開発プラットフォーム」の構築を志します。

- QSTホームページ : <http://www.qst.go.jp/>
- QST未来戦略2016: <http://www.qst.go.jp/about/welcome/plan2016.html>